

盲目の弁護士から見た社会

(竹下義樹)

1 私の今日までの歩みと障害者福祉

(1) 失明からの再出発

- 弁護士を目指した10年、司法試験の点字受験の実現、ボランティアの援助による教材作り

(2) 弁護士としての30年の歩み

- 全盲弁護士は社会にどのように受け入れられたか

(3) 私の3つの顔

- 弁護士としての日常業務、障害者運動における役割、貧困問題への取組

2 障害のある人の権利条約と日本の福祉

(1) 障害のある人の権利条約とはどのような条約か

- 「障害」に対する考え方が変わろうとしている、障害者差別と合理的配慮

(2) 障害者福祉の改革と私の役割

- 日盲連としての活動、障害者政策委員会をはじめとする各種委員会での役割